
鉾山研究会

ニューズレター No. 85

2011年6月9日

1 鉾山研究会の研究大会・総会の報告

I 部 研究大会

II 部 総会報告

1 総会報告について

川俣修寿

総会参考資料「会誌89号の編集方針の提案と赤字対策」

2 会計報告

久保敦子

2 定例研究会のお知らせ

3 第29回鉾山の映像を観る会のご案内 丸山もところ

4 海外鉾山文献読書会のご案内 丸山もところ

5 事務局からのお知らせ

① 釜石市の森一欽さんからのメール

② 『鉾山研究』誌89号の編集方針

③ 会員情報

④ 赤字補填のカンパのお願い

鉾山研究会 連絡先

会長 村串仁三郎

〒270-0127 流山市富士見台2-5-16-13-401

電話・ファックス 0471-52-8952

メール・アドレス

事務所 国学院大学、若木タワー第913号、菅井益郎研究室

〒150-0011 渋谷区東4-10-28

1 鉾山研究会の研究大会・総会の報告

鉾山研究会の研究大会・総会は、予定どおり 2011年4月23日(土) 午後1-5時から法政大学市ヶ谷キャンパス、80年館7階丸会議室で開催された。出席は、以下の会員であった。島崎、品田、原田(洋)、寺本、中山、安東、久保、小野崎、川俣、丸山、杉本、竹橋、村田(弘)、岡田(九州からはるばる)村串の会員15名であった。

I 部 研究大会

近代新潟県の油田開発—西田油田の事例を中心に 品田光春
産業革命以降銅山製錬が自然環境と社会にもたらした影響と現
代的課題 島崎光清
自著『近代日本における鉾物資源開発の展開—その地域的背景
—』を語る 原田洋一郎
写真でみる中国炭坑訪問の記録 寺本孝広

II 部 総会報告

総会報告について

川俣修寿

議長に川俣会員が選任され、まず2010年度の事業報告を村串仁三郎会長がニューズレターNo.84に添って説明したが、海外鉾山文献読書会は9回開催された、伊豆巡検は東日本大震災の影響で中止されたと訂正報告があった。

昨年の合宿地の釜石市も今回の災害で大きな被害を受けた、雑誌『鉾山研究』の反応と発行し続ける価値について説明があり、88号の印刷費が予算の25万円を超えて50万円弱と増加した。その理由として、投稿が多くしかも長く図表、写真が多く製版代が増加したと会員に理解を求めた。

11年度事業計画は、昨年度並みとし、会費も年間4000円を維持して赤字解消に努めたいと提案があった。また、村田淳会員からの「今後の在り方についての提案」のペーパーが配布されたが、会長提案と重複するので予算案と併せて議論することにした。以上、事業報告と計画、規約改正は採決の上了承された。

予算は、赤字の埋め合わせについて村田淳会員は、1人カンパ5000円をメドに募る、雑誌発行費は、投稿者が半額負担するという提案があった。久保会計からは、会費を年間6000円に戻す意見が出された。

村串会長からは、雑誌投稿者から1ページ当たり(1600字、写真、図表込み)1000円徴収する。ただし10ページを超えた分については1ページ当たり2000円とする案が出された。

また川俣会員から、88号の印刷請求金額を精査したが、ページ数と写真、図版が多いことから判断して妥当と思われるという見解が示された。その上で、饒舌な原稿は整理、縮小して貰う、写真、図版は最小限度とし6ページまでは1ページ当たり1000円、7－10ページまでは同2000円、10ページ以上は同3000円とする案が提案された。

丸山会員からは、建築学会を例に雑誌の定価を年間会費と同額とする、発行部数を調整する案が出された。部数増は、在庫切れを防ぐためある程度は必要と川俣事務局員から説明があった。久保会員から追加提案として、投稿者に雑誌を買い上げて貰うよう提案があり、会長から現に30冊購入した会員もいると報告があった。その他、赤字解消を数年で行ったらどうかと小野崎会員から発言があった。

以上多様な意見が活発に交わされたが、結論として①会費は年額4000円を維持する。②雑誌発行経費は、投稿者にある程度負担をお願いする。その負担額は、6ページまでは1ページ当たり1000円、7－10ページまでは同2000円、10ページ以上は同3000円とする。写真図版は最小限度にとどめる。③雑誌の定価を適切なものにする。

なお、上記を基本とし後は、会長の裁量で赤字解消に臨機応変で対応する事になった。研究活動の活性化のため雑誌投稿が増加するのは歓迎すべき事なので、健全財政を回復した場合、投稿者負担見直し議論を行うことは当然と思われる。

会長指摘の通り、投稿者が一部の会員に片寄る傾向があるので、投稿が少ない会員に執筆を促すと同時に、常連者の出版活動も会として支援したい。

最後に、役員人事案件が審議され、現状のとおり会長村串仁三郎、会計久保敦子、会計監査興野喜宣、事務局川俣修壽が再任されたが、川俣事務局員から「30年以上連続して事務局を引き受けている」と現状説明があり確認された。

議事以外では、遠田会員から提供された鉱石標本が希望者に配布された。九州から岡田有功会員が出席した。出席総数は15人。

なお小野崎会員の釜石についての報告があり、ニューズレターNo.84号を参照。加えて復興に当たっては、災害に強い町作りのため釜石鉱山の社宅跡地など可能な限りの協力を行いたい。また、新日鐵は、釜石の線材工場を閉鎖する積もりはなく、釜石復興に共に歩むと表明していると報告があった。

総会参考資料

当日配られた文書「会誌89号の編集方針の提案と赤字対策（2011年4月23日）村串仁三郎」

『鉾山研究』会誌 88 号で大幅な赤字をだしましたので、これまでの編集方針を反省し、今後そのようなことのないよう、会誌編集方針を以下のように提案します。反省点は、会費 7000 円時代の編集慣行を成り行きの引き継いできたことである。

会誌のこれまでの費用実績をあげれば、以下のとおり。

第 85 号、44 頁、120 部、198450 円

第 86 号、87 頁、150 部、387450 円

第 87 号、50 頁、150 部、254389 円

第 88 号、96 頁、220 部、447300 円

これまで編集方針らしきものはなく、投稿原稿量も制限なし、掲載料もなく、自由であった。しかし会誌 88 号のように、多くの投稿があり、会誌の部数分量が増えれば、相当の費用がかかるのは必然であった。しかも、費用の負担を投稿者に会誌の買上げでカバーしようとしたため、発行部数が増えて、印刷費用を増加させた。

今回の赤字を機会に、これまでの反省を踏まえ、次のような編集方針をたてることにする。

基本的方針。

1、投稿・掲載料を有料とする。5 頁以内（1600 字、写真、図表込み）につき 1000 円とする。6 頁—10 頁は 1 頁 2000 円とする。

2、投稿論文の分量は、原則として 1 論文最大 10 頁以内とし、それを超える場合は、1 頁 3000 円の追加分を支払う。

3、投稿が多数あった場合は、予算以内で発行するために、掲載を制限する場合がある。その場合、投稿回数を考慮して制限し、投稿回数の少ないものを優先して、掲載する。

4、投稿原稿の取捨については、内容の評価はおこなわず、先の基準のほか、投稿の先着順位などを考慮とする。

赤字対策のための当面の編集方針。

研究会の運営費は、ほぼ 5—6 万円で、会費の赤字はもっぱら会誌の発行費である。したがって、2011 年度は、緊縮財政として、収入にみあった会誌発行予算を立てる。

現行の会費を前提とし、赤字 10 万円を本年度中に返済することを前提にすれば、20 頁程度（費用 10 万円程度）の会誌 89 号を発行できる。若干の赤字（5 万円程度）を 2012 年度予算 25—6 万円で、返済しても、2013 年に 30 頁程度の会誌 90 号の発行を期待できる。」

（この点については、川俣会員から、6 頁以内 1000 円、7—10 頁 2000

円、10頁を越える場合は、1頁3000円とする修正案がだされた。この修正案で、会長の2010年度の活動報告、2011年度の方針について全員一致で承認した。

なお村田（淳）会員から提案メモが一部の会員に送られてきていたが、これについて、会長からとくに取り上げるべき内容はない、との意見があり、会場からとくに問題にすべしとの意見はなかった。ちなみにメモのポイントは、ニューズレターは、経費を節約するために自前でやる、自前でeメール送れるひとには送る、会費の赤字は、1人5000円程度の寄付をあおぐ、などであった。川俣記)

2 会計報告

久保敦子

2010年度決算報告

収入

繰越金	25、199
会費（63名会費＋会誌会員売上）	270、000
会誌販売代金	53、600
雑収入	16、201
（借入金	147、300）
合計	512、300

（監査の承認印）

支出

会費発行費	450、300
郵送費	43、745
事務費	5、729
活動補助費	12、000
繰越	526
合計	512、300

収支

赤字	147、300
----	---------

3 2011年度予算案として会長から提起された修正案

収入

繰越金	526
会費（63名×4000）	252、000
会誌販売代金	60、000
雑収入（過去の会誌売上代金）	49、474

実質収入合計	362、000
支出	
会費発行費	150、000
郵送費	40、000
事務費	6、000
活動補助費	12、000
(返済	147、300)
実質支出計	355、300
繰越金	6、700
合計	362、000

収支

収362、000－出355、300＝6、700（繰越金）

2 定例研究会のお知らせ

日時 7月9日（土）14時30分－17時

場所 法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー19階
経済学部資料室（注－総会の場所とは違います）

報告

1 「足尾銅山の光と影－」（目下『労働の科学』誌に連載寄稿中）

小野崎敏

2 足尾銅山の写真をデータベース化しつつある作業について

藤田貢崇

大変興味深い二人の報告です。ふるってご参加下さい。

3 第29回鉦山の映像を観る会のご案内 丸山もとこ

日本で現在唯一の坑内掘り炭鉦である“釧路コールマイン”を特集します。映像の会では何年か前にも取り上げましたが、あの時お世話になった会員の石川孝織さん（釧路市立博物館）から今回さらに映像をお借りすることができました。太平洋炭礦時代の貴重な映像と、釧路コールマインの炭鉦マンが技術指導をしているベトナムの炭鉦の映像も上映します。皆様の参加をお待ちしております。

【日時】2011年7月23日（土） 開場 13:00 上映開始 13:30 解散 17:00

【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木神園町3-1）
センター棟5階512号室（文芸同人たんぽぽの会で予約しています）

【会費】 無料

【上映内容】

13:30-15:00

・「石炭のある町 釧路」，シリーズ「音のある風景」，NHKBSHi，10 分，2009(平成 21)年 5 月 11 日放送ほか

・「国産エネルギーの担い手 太平洋炭鉱」，HBC 映画社(現 HBC フレックス)制作，太平洋炭礦，27 分，1977(昭和 52)年

・「運炭列車（坑外軌道 1989）」，福士正明，7 分，1989(平成元)年

・「終りなきイノベーション」，太平洋炭礦製作，18 分，1997(平成 9)年

・「生き残りへの模索～岐路にたつ太平洋炭鉱～」，シリーズ「北海道クローズアップ」，NHK 札幌放送局，25 分，1999(平成 11)年 5 月 29 日放送

15:00-15:15 休憩

15:15-16:30

・「黒いダイヤが燃えている～資源警報！石炭を確保せよ～」，シリーズ「日経スペシャル ガイアの夜明け」，テレビ東京，正味約 45 分，2007(平成 19)年 1 月 23 日放送

・「クアンハイン石炭会社：5 年間にわたる建設及び発展」30 分，2008 年 4 月．

※解散後、懇親会を予定しておりますので、お時間のある方はご参加ください。

※ご意見ご要望のある方は〈jMrs.eizonokai@gmail.com〉までご連絡ください。

3 海外鉱山文献読書会のご案内

丸山もとこ

近年、国際会議に出席したり、海外の鉱山を見学する機会が増えています。そこで、英語で著された鉱山文献を読み解く勉強会を月一回のペースで行っています。文献を通して海外の鉱山史と鉱山事情を学ぶほか、英語の専門用語に慣れることを目的としています。この勉強は海外で活動するうえで欠かせません。英語が苦手という方こそ、奮ってご参加ください。

【テキスト】Spence, Clark C. *Mining Engineers and the American West: The Lace-Boot Brigade, 1849-1933*. 1970. Reprint. Moscow, Idaho: University of Idaho Press, 1993. 次回は p.265 から

【次回】2011 年 6 月 29 日（水）15:00～17:00

【会場】GIO オーガニックカフェ（港区港南 1-9-36 アレア品川 2F）

【会費】なし ただしテキストは自分で用意してください

※日程は直前に変更されることがあります。ウェブサイトで確認してください。

※参加希望者は事前に〈jmrs.dokushokai@gmail.com〉までご連絡ください。

4 事務局からのお知らせ

① 釜石市の森一欽さんからのメール

（昨年、釜石鉾山見学会でお世話になった釜石市教育委員会の森一欽さんから安心のメールを頂きました。掲載させていただきました。むらくし）

鉾山研究 88号及びニューズレターNo.83・84 を頂きました。誠にありがとうございます。震災時たまたま旧釜石鉾山事務所の耐震調査を実施しており、建物の内壁は一部崩壊し、資料の一部が壊れてしまったものの、予想していた以下の被害で済みました。

現在過剰報道されているような物資の不足が釜石ではなく、仮設住宅が目下の課題となっております。震災直後に小野崎氏が物資と共にやってこられたのにはさすがと言わざるを得ませんでした。先生をはじめとする鉾山研究会の方々に生きていることをお知らせでき、助かりました。

今後、本業に戻るまでには相当の日々が必要とは存じますが、倍返しの精神で次へ進んで行こうと考えていますので御教示、御協力をお願いいたします。

釜石市役所 森一欽（2011年4月13日）

② 『鉾山研究』誌 89号の編集方針

投稿締め切り 2011年12月以内。会長当て、メールまたは郵便で投稿。
投稿要綱は、総会報告を参照。

なお会の財政で赤字がでましたが、会誌の発行が萎縮しないように努めますので、ふるって投稿をお願いしたい。

③ 会員情報

新会員紹介 藤田貢崇 法政大学経済学部教授（11年4月就任）

専攻 物理学、科学技術史

退会者の報告、2011年度から川田敏文、小坂鉾山博物館の2氏

④ 赤字補填のカンパのお願い

赤字解消のため、総会の決定にしたがい会員からの寄付をお願いいたします。15万円の赤字・債務を2年くらいでか解消したいと考えています。振込用紙に会費に加え、幾許かの金額を書き加えていただきたいと思います。